

れるだろう。故郷を残そう、さもなくば無人となつてしまふ、という危機感が強い反響を呼び起こし、故郷存続へのたたかいを生みだしている。

● 原材料配達人としての自然

地域を、単にエネルギーや原材料を採取するための場所としてのみ見ることには不幸な限界がある。地域は、断ち切ることのできない鎖で人と結びついている。自然環境の状況と機能は、人間の幸福に対して、単純には記述したり評価したりできないような形で影響を与えている。もし、開発利益という短期的な観点から、地域が天然資源の銀行あるいは投機のための先物市場と見なされるなら、国立公園も自然保護区も「開発対象」として扱われることになるだろう。そして、経済の状況がそれを必要とするようになれば、たどころにダムがつくられたり、自動車道路が網の目のように張り巡らされるのだ。そのような例としては、山岳地帯の森林の荒廃、繊細な島々を覆う木々の伐採、水河期の砂礫堤の擁り崩し、景観として文化的価値をもった農耕地が放棄されて、ただの縦の林となつてしまふことなどがあ

る。
地域開発が問題とされるとき、開発業者がもっともよく使う議論は「雇用の創出」である。しかし多くの場合、雇用機会は一時的であり、就労者の数も失われるものの価値とは釣り合わない。もつとも、環境にいくらの価格を付けるかにもよるが……。

質の高い人間的な環境をつくりだすには、その出発点として、全体的把握と自然環境に関する長期的な計画が要求される。あらゆる人間的な安寧は、何よりも活力のある自然環境に基礎を置くものである。それゆえ私たちは、私たちの自然を守るという重要な課題をないがしろにし続けるならば、いずれは何らかの罰を被ることになるだろう。



地域

すべての地域には独自の資源があり、それはいつの時代においても、そこに住む人間たちに生存の基礎を提供し、彼らの活動と発展の枠組みを与えてきた。人間は、自らの地域に根をもち生活をもってきた。その地域と自然とのかわりは、人間の社会的、文化的生活に浸透しており、人々の感じ方、考え方、ものの取り扱ひ方に影響を与えた。地域とのかかわりは、人々の安寧および営みにとって基本的な意味をもってきた。いま、人々が近視眼的な利益を求めて、生まれ出たその環境を捨てて異郷へ移り住み、この地域が脱け殻のようになつたとき、どんな結果が訪

